

今さらだけど、聞いてみたい！

YouTube 動画視聴の仕方

■QRコードの読み取り

スマートフォン（以下、スマホ）を持っている方はカメラ機能の中の「バーコード読取カメラ」でQRコードを読み取ってリンク先に飛べます。LINEの「友達追加」のQRコード読取機能でも可。



教区 YouTube チャンネルの URL ▼

<https://www.youtube.com/c/カトリック大阪大司教区>
(または、YouTube 内で「カトリック大阪大司教区」で検索)

■YouTube チャンネルの登録

YouTube のアカウントを持っていれば、このボタンを押せば登録完了。お気に入りのチャンネルはスマホ画面上部（パソコンでは左パネル）に表示されます。

チャンネル登録



■新着動画お知らせ機能

「通知ボタン」を押せば、新着動画を知らせてくれます。



■高評価・低評価ボタン

良い動画だなと思ったら「いいね！ボタン」を押しましょう。動画配信者への励みになります。



■再生リスト

テーマごとにリストを作成しているチャンネルであれば、気になるトピックの関連動画だけを連続再生できます。（例：教区チャンネルの「2020 年教区ミサ」、「カトリック教会のカテキズム」など）



■スマホをテレビにつなげて動画視聴

キャスト機能対応のテレビがあれば、スマホの「キャスト機能」ボタン（左のマーク）を押して、スマホで見ている動画をテレビにリンクさせて視聴することができます。

ふりかえって

▶ 1面から続く

配信に詳しい方がいれば今後のためにぜひ助言をお願いしたい。



本当に映らないもの

ミサ動画配信に関わって一番大変だったことは、普段の業務に加えて作業しなくてはならなかったこと。けれども、なるべく低コストでうまく配信できる方法を探ることは挑戦でもあり、色々なことを学んだ。

その後、大聖堂で多方向から映すことができるよう IP カメラを2台増やした。高解像度の映像配信に耐える配信環境の調整とオルガンの音をきれいに拾うことが今後の課題。

小教区でのライブ配信について質問があれば、教区本部事務局 IT 担当までお問い合わせを。反対に、

ミサ動画は特にコロナ禍において祈るための道具になりうるし、また宣教のツールにもなるが、実際に教会におもむいて共同体の中で与るミサとは質的にまったく異なる。「聖体の秘跡」という神秘の偉大さは実際



▲ 教区召命の日（3/20）の場面。後方から望遠で映すメインのカメラは家庭用ビデオカメラ

にいただくことでしか味わえない。カメラがとらえることができない部分のほう

にもそれを思い出させてくれるのかもしれない。微力ながらも配信をとおして、ミサの魅力を伝えていきたい。



「信仰の時間」

ABCラジオ(朝日放送)

毎週日曜日 5:50~6:00AM

4月担当：山口 武史 神父
(園田教会)

復活の体験

(11日放送分より)



私たちキリスト教徒の一番大事な信仰は復活を信じることです。信じることに二通りあります。一つ目は科学的なものです。信じようが信じまいが、はっきりしていることです。例えば、地球は丸いとか、物は上から下に落ちてゆくとかで、信念・信条は関係ありません。

しかし、違う信じ方もあります。例えば、友だちをいい奴だと信じることです。これは科学では証明できません。いい奴の定義を決められませんし、行動や言葉でも証明できません。やさしい言葉をかけてくれて、プレゼントをくれたとしても、善意を疑いだしたら騙そうとしている可能性もあります。この場合の信じるは、証拠ではなく、今までの付き合

いの体験から答えを出すしかありません。私たちが復活を信じるのは、確たる証拠ではなく、神との関わりから導き出されるものです。

今日は復活節第2主日で、毎年ヨハネ福音書 20 章 19～31 節が読まれます。弟子たちが復活の主キリストと出会い、何を体験したかが記されています。

復活のイエスの二度の出現が伝えられていますが、同じパターンです。まず日付を書き、続いて家の戸に鍵をかけていたことを記し、さらに「あなた方に平和を」というイエスの挨拶に触れ、最後にイエスの指示を述べています。最初の出現での指示は「わたしはあなたがたを遣わす」と「聖霊を受けなさい」でした。ここ

での聖霊の役目は罪を赦す力です。なぜなら「だれの罪でも、あなたがたが赦せばその罪は赦される」と続けているからです。

人が他人の罪を完全に赦すことは大変難しいことですが、聖霊を受けるなら可能です。聖霊は神からの息吹、すなわち助け、支えであり、人を変える力を持っているからです。しかも「罪が赦される」の主人公は神です。従って地上で人が罪を赦すとき、天上では神が罪を赦していることになります。人間同士の赦しと、神による赦しはセットになっているということです。人が他人を赦すことができるのは、神が働くからであり、その赦しは即座に神の赦しとなります。

日本の文芸評論家の第一人者の小林秀雄が幽霊はなぜ怖いのかと、本に書いていました。日本の幽霊は西洋のドラキュラやフランケンシュタインと違って何も危害を加えません。ただボーっと部屋の片隅に立っているだけです。幽霊の多くは人の悪意によって殺されたので、この無念は有り余るほどです。この人を殺めた人も罪の意識が相当あります。

そんな犯人に、殺された人が現れます。犯人は幽霊を見て、自分の犯した罪の深さや、自分のあくどさを目の当たりにして、恐怖するのではないかと。幽霊が恐いのではなく、自分の罪深さやあくどさに耐えきれなくて、最後はひどい死に方をする、その死も体の死ではなく、自分に対するあきらめや絶望のしるしだろうと述べていました。救いようがない、というわけです。

弟子たちも復活のキリストに出会った時、自分の罪深さやあくどさ、醜さ、弱さが改めて身に染みたのではないのでしょうか。しかし、復活のイエス・キリストは、そのような弟子たちの過去の所業を全く意に介せず、生前のように、むしろもっと愛情を込めて、関わろうとしました。弟子たちはイエスの赦しを体験したに違いありません。

キリスト教が赦しを大事にするのは、道徳や倫理ではありません。弟子たちの復活の体験から来たことです。赦されたから赦す、それが私たちが復活を信じることです。